

テモラウ文と使役文の関係に関する研究 一文が表す事態に注目して—

呉 丹

A Study on the Relation between “-temorau” Sentences and Causative Sentences: A Focus on the Event that Sentences Express

WU Dan

Abstract

This paper analyzes the relation between “-temorau” sentences and causative sentences in Japanese, and examines the cases in which the two types of sentences express the same event and the cases in which they do not. There has been considerable previous research analyzing “-temorau” sentences and causative sentences respectively, yet there are few papers discussing the relation between them. Therefore, this paper, first shows characteristics of occasions where the two types of sentences expressing the same event, and then, the characteristics which the two types of sentences express a different event. These are explained with reference to numerous corpus examples extracted from a corpus. “-temorau” sentences and causative sentences can express the same event in cases where the affect is one of request or permission from a subject to an agent, and in cases where the sentence structure suggests a request affect. “-temorau” sentences and causative sentences can also express the same event when they co-occur with forms that express commands or volition. “-temorau” sentences and causative sentences cannot express the same event when the affect is a passive one.



目次

1. はじめに
2. 先行研究
 - 2.1 テモラウ文に関する研究 ——山田 (2004)
 - 2.2 使役文に関する研究 ——早津 (2004)
 - 2.3 テモラウ文と使役文の関係に関する研究
 - 2.3.1 村上 (1986)
 - 2.3.2 楊 (1989)
 - 2.3.3 山田 (2004)

- 2.3.4 李 (2006、2014)
3. 研究方法
4. 本稿の立場
5. テモラウ文の3種と使役文との関係
 - 5.1 依頼的テモラウ文
 - 5.2 許容的テモラウ文
 - 5.3 単純受影的テモラウ文
6. おわりに

1. はじめに

現代日本語には以下のようなテモラウ文と使役文、受身文がある¹⁾。

- (1) a 花子が写真を撮った。(原動文²⁾
 b 太郎が花子に写真を撮ってもらった。(テモラウ文)
 c 太郎が花子に写真を撮らせた。(使役文)
- (2) a 花子が太郎をほめた。(原動文)
 b 太郎が花子にほめてもらった。(テモラウ文)
 c 太郎が花子にほめられた。(受身文)

(1) の原動文では、「花子」が主語であり、同時に動作主でもある。それに対して、(1b) のテモラウ文、(1c) の使役文では、いずれも主語は「太郎」であり、動作主は補語の「花子」である。同様に、(2a) の原動文では、「花子」が主語であり、同時に動作主でもあるのに対して、(2b) のテモラウ文、(2c) の受身文では、いずれも主語は「太郎」であり、動作主は補語の「花子」である。つまり動作主が主語ではないという点でテモラウ文と使役文、受身文の三つの構文が共通している。テモラウ文と使役文、受身文のこの共通のヴォイス的特徴は、村上 (1986)、早津 (2012) などでも指摘されている。

さらに、(1b) のテモラウ文と (1c) の使役文に注

目してみると、主語の「太郎」が動作主の「花子」に依頼したり、命令したりなど何らかの働きかけをして、結果として「花子」が「写真を撮る」という動作を実現したことを表しているという共通点がある。また、(2b) のテモラウ文と (2c) の受身文は、主語の「太郎」が動作主の「花子」の動作から影響を受けるということを表しているという点で共通している。

以上から分かるように、テモラウ文は、ある場合には使役文とほぼ同記事態を表し得、ある場合には受身文とほぼ同記事態を表し得る。つまり、3つの構文は、本質的に異なる意味を表す構文であるにもかかわらず、主語と補語の格表示や表す事態の種類の点で似た性質がある。このことは従来気づかれていたことではあるが、この問題に焦点をあてて詳述した論考はほとんどない。本稿はテモラウ文と使役文を対象にして、両者の関係の解明をめざすものである。

テモラウ文が、構文的意味的に使役文、受身文とそれぞれどのような関係があるのかを解明するという大きな目標に向かう一つのステップとして、本稿では、まず、大規模コーパスの実例を用い、テモラウ文と使役文の関係を、テモラウ文を中心に考察する。そして、両構文がほぼ同記事態を表す場合の特徴と、異なる事態を表す場合の特徴を探る。

なお、数は少ないが、動詞の中には使役の形のない動詞（「消える」などの有対自動詞）があり、格交替が必要な時は、テモラウ文を用いるしかない。

- (3) もしディネットの旦那に万一のことがあった

ら、おまえもおまえの弟もこの世から消えても
らう { *消えさせる } からな。(女医)

このことについては本稿ではとりあげない。

(6) 辞めてほしいと思っていた人に、思いがけなく
辞めてもらったことで、直子は少しは気も晴れ

た。(単純受影的テモラウ受益文)

(山田 2004:121-122)

2. 先行研究

テモラウ文についても使役文についても多くの論考があるが、ここでは、本稿と特に関係がある以下の研究を紹介する。

2.1 テモラウ文に関する研究 —山田 (2004)

山田 (2004) は、「テモラウ受益文が構造的に持つ受影者から動作主に対する何らかの働きかけのあり方」を「働きかけ性」と呼び、どのような場合に働きかけが認められどのような場合に認められないかを考察している。働きかけ性に段階があるとし、「わざわざ、そのまま、思いがけなく」などの副詞を一つの手がかりとして、事態に対して作用を及ぼす意図と実際の積極的作用という観点から、働きかけ性を依頼的、許容的、単純受影的に分けている。対応するテモラウ文のタイプを「依頼的テモラウ受益文」「許容的テモラウ受益文」「単純受影的テモラウ受益文」と呼んでいる。「依頼的テモラウ受益文」では事態に対して作用を及ぼす意図があり、実際の積極的作用もある。「許容的テモラウ受益文」では、事態に対して何らかの意図はあるが、実際の作用はない。「単純受影的テモラウ受益文」では、事態に対して意図も実際の作用もない ((4)―(6) の下線は山田 (2004) による)。

(4) 私の気持ち分かっているのであれば、私がある人にわざわざ辞めてもらったことをどう思っているか分かつというものだわ。

(依頼的テモラウ受益文)

(5) 彼の方から辞めたいと言ったのであって、わたしはそのまま何も言わず辞めてもらっただけなのよ。

(許容的テモラウ受益文)

山田 (同) では、この3種の文は副詞との共起で確かめられると指摘されている。山田 (同) は、(4) のような依頼的用法は「わざと」「わざわざ」などと共起しうるとし、「わざわざ」という副詞から、受益者の「私」から出来事の「あの人がやめる」への意図があり、出来事への積極的な作用もあるとしている。(5) のような許容的用法は「そ／このまま」などと共起し、受益者から出来事へその出来を阻害しないという意図を持っているが、出来事への実際の作用はない。(6) のような単純受影的用法は「偶然」「期せずして」「思いがけず」などと共起し、受益者から出来事への意図もなく、実際の作用もないという。

2.2 使役文に関する研究—早津 (2004)

使役文に関する研究は、佐藤 (1986)、早津 (2004) などがある。佐藤 (1986) は、使役文の文法的意味とそれぞれの意味の実現の条件を記述し、その派生関係を考察している。佐藤 (同) は、使役文を記述するにあたって、使役文をまず「基本的な使役構造の文」と「派生的な使役構造の文」に分け、更に「基本的な使役構造の文」を「人間の人間にたいするはたらきかけの表現」と「因果関係の表現」のように分け、「派生的な使役構造の文」を「他動詞構造の文へ移行しつつあるもの」と「再帰構造の文 (自動詞相当の合成述語をもつ文) へ移行しつつあるもの」に分けている。

早津 (2004) も使役文の意味や構造などを詳しく記述している。本稿では使役文に関する定義や分類などを主に早津 (2004) を参考にしている。以下に早津 (2004) を簡単にまとめる。

早津 (2004) では基本的な使役表現を規定した上で、そのまわりに広がる様々な表現を考察している。基本的な使役表現というのは、人 (使役主体) が他者 (使

役対象＝動作主体)に意志動作の実行を促す要求的な働きかけをしてその他者の意志動作を惹き起こす、という事態を、使役主体を主語とし、使役対象を二格・ヲ格の補語とし、使役動詞「V -(s)aseru / -(s)asu」を述語とする構造「X が Y に / を (Z) を V -(s)aseru / -(s)asu」で表現するものを基本的な使役表現だという((7)―(8)の下線は早津(2004)による)。

- (7) 彼は下婢に言い付けて、階下から残った洋酒を
運ばせた。(家) (早津 2004:129)

基本的な使役表現の表す事態は以下の3つの特徴がある。つまり、① X が Y に対して動作の実行を要求する何らかの働きかけをし、② Y がその意向を受けて意志動作を行うという特徴、そして、③ X はもちろん、Y も意志的存在としての人だという特徴である。

上に述べられた特徴の変容や弱まりあるいは喪失によって、使役は「許容・許可的使役」「因果関係の使役」「他動的使役」のようなさまざまな表現として現れる。

「許容・許可的使役」とは、(8)のような、X から Y への動作要求的な働きかけによってではなく、Y の方に動作実行への希望があって X がそれを認めるというかたちで動作が行われる場合の使役である。

- (8) 子供が留学したいというので2年間だけという
約束でアメリカに行かせた。(早津 2004:130)

2.3 テモラウ文と使役文の関係に関する研究

2.3.1 村上(1986)

村上は内部構造の点から見ると、テモラウ文は「うけみ構造の文」のうちの「めいわくのうけみ」と使役文に似ていると指摘している。

- | | | | |
|---|--------------------|-----|----------|
| { | (A) 和子は | 三郎に | 行かれた。 |
| | (めいわく主体)(動作主体)(動作) | | |
| { | (B) 和子は | 三郎に | 行ってもらった。 |

- | | |
|---------|-------------|
| (利益主体) | (動作主体)(動作) |
| (C) 和子は | 三郎に(を)行かせた。 |
| (使役主体) | (動作主体)(動作) |
| | (使役の客体) |

(村上 1986:7)

この三つの文は動作主体が主語の位置から外され、補語の位置におかれているという点で共通している。しかし、(A) (B) は主語が動作に直接的にかかわらず、利益、不利益の受け手としてのみ存在しているのに対して、(C) では主語は動作を実現させるために使役主体としての働きかけ性を持っている。また、形式面から見ても、(A) (B) の場合は動作主体(三郎)は二格しか取れないのに対して、(C) の場合はヲ格の形も可能である。

こうして、テモラウ文は文の主語と補語とのかかわり方の点から、使役文より、めいわくのうけみのほうにより共通性を持っていると指摘している。テモラウ文の主語が動作に直接的に関わらず、利益、不利益の受け手としてのみ存在しているという村上(1986)の指摘は、この後に紹介する楊(1989)などには見られない独自の主張である。しかし、村上は、テモラウ文と使役文の異同に関する議論をこれ以上深めることはしていない。

2.3.2 楊(1989)

楊(1989)は対照的観点から日本語と中国語の使役表現を考察する際に日本語のテモラウ文と使役文の関係を論じている。「[～てもらう]と「させる」は X (主語(筆者注)) が Y (動作主(筆者注)) に対し、ある動作をするように働きかける点では同じであるが、その関与のしかたが異なっている」と述べている。

- (9) 明日から仕事をしてもらうぞ。
(10) 厚生省は身元が分からない孤児に国費で永住帰国してもらうために、三年前に身元引き受け人制度を発足させることを決めた。

(楊 1989:188)

楊 (1989) はこの二つの文では、「～てもらう」のかわりに「させる」を用いても文法的関係は変わらないため、「～てもらう」はXがYにある動作、作用をするように働きかけるという使役の観点から見れば、「させる」と同じ側面をもつものだと考えられると指摘している。

一方で、「～てもらう」はXのYに対する働きかけが弱く、Yの主体性が強いのに対し、「させる」はXのYに対する働きかけが強く、Yの主体性が弱いという違いもあると述べている。

XのYに対する働きかけの強弱はXとYの力関係をも示し、XがYより目上か目下か、尊敬すべきかどうかなどと関係する。

(11) a 学生が教授に報告させる。

b 学生が教授に報告してもらう。

c 学生が教授に報告していただく。

(11') a 教授が学生にレポートを提出させる。

b 教授が学生にレポートを提出してもらう。

c 教授が学生にレポートを提出していただく。

(楊 1989:192)

(11) の場合は、教授が目上の人あるいは尊敬すべき存在であるため、Xの働きかけの弱いほうの「～てもらう」((11) b) あるいは「～ていただく」((11) c) を用いたほうが適当だと指摘している((11) aは言えないわけではないが、学園紛争時代の学生と教授の間柄を思い起こさせるため、一般的ではないという)。一方、(11') の場合は、逆にXの働きかけの強い「させる」を用いたほうが自然であるとされている。

2.3.3 山田 (2004)

テモラウ文と使役文の関連について、山田は「使役文は、テモラウ受益文の働きかけ性の部分を表す表現

であり、間接受影性を含意しない点で異なっている」としている(山田 2004:132)。

また、山田は、「放っておくと何をするか自分でも分からないので、僕は太郎に自分を {しばってもらった/しばらせた}。」という例文をあげ、「主語位置の受影者自身が動作の対象となる直接テモラウ構造は、その行為が恩恵的であれば、働きかけの強制力に差はあっても、再帰的な構造を持つ使役文と相互置換可能である」(山田 2004:132) と指摘している。

2.3.4 李 (2006, 2014)

李 (2006) は、主語である人から動作主への「働きかけ性がかかわる」テモラウ文を「使役的「てもらう」文」(「部下に会社を辞めてもらった。(李 2006:50)」のような文)と「依頼的「てもらう」文」(「母におもちゃを買ってもらった。(李 2006:50)」のような文)に分け、使役文と比べながらテモラウ文の意味を決める要因を考察している。要因には、動詞の他動性が高いか低いか、名詞句の上下関係がどのようなのかというような客観的要因と、主語の意図つまり強制的に働きかけるか依頼的に働きかけるかなどのような主観的要因があるという。

この李 (2006) では許容的な使役文について考察されていなかったのに対し、李 (2014) ではそれも含めて使役文とテモラウ文の共通点と相違点を考察している。李 (2014) は「叙述」と「実行」のムードを区別し積極的働きかけと消極的働きかけに分けてテモラウ文と使役文の働きかけ性を考察している。その結論の一部として以下のようなことが述べられている。「〈叙述〉のムードにおける使役文とテモラウ文は、積極的働きかけの用法においては強制と依頼の働きかけがともに成立し、消極的働きかけの用法においては許容の意味がともに読み取れる。(李 2014:30)」

このように李 (2006) と李 (2014) は学ぶべき指摘の多い論考ではあるが、多くの事例にもとづく実証的な研究ではないようであり、言語事実に基づいて更なる考察をする必要があるだろう。

以上のように、テモラウ文と使役文の研究は、李 (2006、2014) 以外は二つの構文のどちらか一方を中心に課題としたものがほとんどである。積極的に両構文を比較し、どのような場合に同じ事態を表現し、どのような場合に同じ事態を表現できないかを考察するものはないため、それを明らかにする必要があると思われる。本研究では、このような点に注目して考察することとする。

3. 研究方法

本稿では、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス通常版 (BCCWJ-NT)』⁵ (以下 BCCWJ とする) を検索アプリケーション「中納言」を用いて検索し言語資料を収集する。

BCCWJ のコアデータと非コアデータを対象に、「テモラウ」と「(サ)セル」を含む文を検索する。

検索条件は次の通りである。

テモラウ文の検索条件：

短単位検索

- ・前方共起 1：品詞の大分類が 動詞
- ・前方共起 2：品詞の中分類が 助詞—接続助詞 AND 語彙素が て
- ・キー：語彙素が 貰う

使役文の検索条件：

短単位検索

- ・前方共起 1：品詞の大分類が 動詞
- ・キー：語彙素が「せる」
語彙素が「させる」

テモラウ文と使役文の検索対象はいずれも以下の通りに設定する。

- ・検索対象：出版・新聞 (コア非コア)、出版・雑誌 (コア非コア)、出版・書籍 (コア非コア)、図書館・書籍 (非コア)、特定目的・白書 (コア非コア)、特定目的・ベストセラー

(非コア)、特定目的・知恵袋 (コア非コア)、特定目的・ブログ (コア非コア)、特定目的・法律 (非コア)、特定目的・国会会議録 (非コア)、特定目的・広報誌 (非コア)、特定目的・教科書 (非コア)

上記の検索条件で検索した結果、テモラウ文の用例が 28,341 例収集され、使役文の用例が 126,420 例収集された。この 2 つの構文からそれぞれランダムに 5,000 例、1,000 例を選び、本稿の考察に利用した。

なお、本稿に出ている例文が日本語として相応しいかどうかを日本語のネイティブスピーカー 3 人にチェックしてもらった。

4. 本稿の立場

2.1 節で述べたように、山田 (2004) はテモラウ文で表される働きかけ性に段階性があるとし、事態に対して作用を及ぼす意図と実際の積極的作用という観点から、働きかけ性を「依頼的」「許容的」「単純受影的」に分けている。本稿では、基本的に山田 (2004) の分け方に従い、テモラウ文を「依頼的テモラウ文」「許容的テモラウ文」「単純受影的テモラウ文」に 3 分類する立場をとる。

この 3 種の文の例をもう少し見てみよう ((12) — (14) の下線は山田 (2004) による)。

(12) お医者さんに頼んで、いちばんいい注射をしてもらっ (ママ) たら? (鷗) (山田 2004:119)

(13) 疲れてるようだったから、そのまま寝ててもらった。(山田 2004:121)

(14) 5 時頃になってやっと子どもにも遊ぶことに飽きてもらって、帰ることができた。(山田 2004:122)

(12) は依頼的テモラウ文であり、受益者から動作主の「お医者さん」に対して依頼的働きかけをし、「注射をする」という出来事によって、医者の治療という

影響を受けると解釈できる。(13)は許容的テモラウ文であり、「人が寝る」という出来事の継続を許容し、相手が疲れた体を休めるのを見て、安心したということが伺え、影響を受けていると考えられる。(14)は単純受影的テモラウ文であり、受益者から「子どもが遊ぶことに飽きる」という出来事への依頼や許容の作用がなく、子どもが遊ぶことに飽きたという出来事から、やっと帰ることができたという影響を受ける文である。

結論から言うと、テモラウ文のうち依頼的なタイプと許容的なタイプは使役文と共通点があり、単純受影的なタイプは受身文と関連する。このことについて、5節で用例を観察しながら詳しく述べる。

5. テモラウ文の3種と使役文との関係

受益者から動作主への依頼的働きかけのある場合つまり依頼的なタイプと、受益者から動作主への許容的働きかけのある場合つまり許容的なタイプのテモラウ文は、使役文とほぼ同じ事態を表現し得る。それに対して、単純受影的なタイプは使役文と同じ事態を表現できず、受身文と似た事態を表現する。以下に実例を用いて分析していく。

5.1 依頼的テモラウ文

依頼的テモラウ文は以下のようなものがある。

(15) 今日、君にわざわざ来てもらった {≡来させた} のは他でもない。《ネクサス》のその後の経過を聞くためだ。(サザンクロス流れて)

(16) だから余合さんにもこうやって、わざわざ出てきてもらった {≡出てこさせた} んじゃないか。(兜町物語)

(15)のテモラウ文は、話し手が「君」という人物に「《ネクサス》のその後の経過」を聞くために、話し手のところに「来る」ように、なんらかの働きかけ

をして、その結果動作主の「君」が「来る」という動作を行ったということが表される文である。もし(15)のテモラウ文が表すこの事態を使役文で表現すると(つまり、「君に來させた」)、やや命令のニュアンスの違いがあるが、同じように主語が動作主の「君」に動作の「来る」を実現させるように働きかけて、その結果動作主の「君」が動作の「来る」を行ったということとなり、テモラウ文と同じ事態を表すこととなる。こういうことを本稿では「同じ事態を表現する」ということとする(なお、(15)(16)も含め本稿内の用例中に{ }で示しているのは、完全に使役表現に言い換えられるということを示すのではなく、使役表現を使ってもほぼ同じ事態を表現できるということである)。同様に、(16)では、「こうやって」から分かるように、話し手が何らかの形で「余合さん」に働きかけをして、その結果として「余合さん」が話し手のところに出てきたという事態が表されている。使役文で表現すると(「余合さんに出てこさせた」)、テモラウ文と同じく、話し手が動作主の「余合さん」に働きかけて、動作主がそれを受けて「出てくる」という動作を行ったという事態が表される。(15)、(16)のこのような文の意味から、出来事の受益者から動作主への依頼的働きかけがあると考えられる。副詞「わざわざ」がつくことによって、その依頼的働きかけがより顕著になってくる。

また、上の例と異なり、「わざわざ」のような副詞が用いられていない文でも、前後の文脈或いは受益者と動作主の関係から、依頼的テモラウ文であると推測できるものもある。このようなテモラウ文も基本的な使役文とほぼ同じ事態を表現する。

(17) 角のたばこ屋のおじさんは、毎日、お椀をもって玉子1個を買いに行った。そして店の人に割ってもらい {≡割らせ} 血が混ざったり、くずれたりしたら別の玉子にかえてもらった {≡かえさせた}。(糸井重里の万流コピー塾(基本編))

(18) 私はNHXの中にある花屋さんで作ってもらっ

た {≡作らせた} 花束を手にも、近藤がいるにちがいない八階のあたりを見ていた。(月曜日のカーネーション)

(17)の動作主は「店の人」であり、(18)の動作主は文中に出ていないが、「花屋さん」から分かるように、動作主は花屋さんの店員である。これらの受益者と動作主は、客と売り手という関係であり、即ち、受益者(客)が動作主(売り手)に何かの動作をするように依頼的な働きかけをしないと、その動作が実現しないという特徴がある。

さらに動作の受益者と動作主との間にこのような「客—店員」という関係が認められなくとも何らかの依頼的な働きかけの存在が推測できる例もある。

- (19) クーパー氏は、家の電気トースターが故障したから、ペインおやじに診断してもら {≡診断させる} つもりだった。(時間と空間の冒険)
- (20) 海を熟知している地元漁師に、比較的透明度の高い磯に案内してもら {≡案内させる}。(雑想小舎便り)

(19)の場合はトースターが故障したため、「ペインおやじ」に頼んで診断するように依頼していると推測され、(20)は海水の透明度の高い所に行きたいため、地元漁師に依頼して案内してもらおうのだと推測される。つまり(19)(20)は依頼的なテモラウ文である。

使役文とほぼ同じ事態を表しうる依頼的なテモラウ文は上記の用例以外に、次のような2つの構文的特徴が見られるものもある。

A 継起的テ節と主節が同主語であり、かつ前件動詞が働きかけの意志動詞であるテモラウ文

継起的テ節とは、複文の中でテ節の表す事態が起き、その後に主節の表す事態が起きるという、テ節と主節とが時間的前後関係にあるものである(加藤(1995)、仁田(1995))。「～テモラウ」がこのような複文の主節に用いられる文が観察されるが、このよう

な継起的テ節の複文の中で、テ節の前件と後件が同じ主語で、かつ前件動詞が依頼的な働きかけの意志動詞の場合に、後件のテモラウ文に依頼的な働きかけがあると考えられる。このような構文的特徴は後に触れるように基本的な使役文にもみられるものであり、このような特徴を持つテモラウ文は使役文とほぼ同じ事態を表す。

- (21) もともと動物好きな礼二郎だが、正造にねだつて やつと買ってもら {≡買わせた} シェパードを後生大事に飼育していたそうじゃないか。(解剖結果)
- (22) 天地教院と云う神道の教会へ依頼して、神式の霊祭を行ってもら {≡行わせ}、それを霊匣に納めて床の間へ置いてあった。(現代民話考)
- (23) 幸い友人に警察署廻りの新聞記者がいたので、それとなくその男に頼んで 水死事件以後のことを聞き出してもら {≡聞き出させました}。(化人幻戯)
- (24) しかし、下田には、自分で自分の命を断てる自信もなかった。一殺し屋を雇って自分を殺してもら {≡殺させる} しかなさそうだな。(野望戦略)

(21)を例に説明すると、この複文の中で、前件のテ節が継起的テ節であり、テ節の前件と後件が同じ主語「礼二郎」であり、前件動詞が「ねだる」という依頼的な働きかけのある意志動詞である。このような複文の後件のテモラウ文に依頼的な働きかけがあると考えられる。

前件動詞は上の例に出ているように、「頼む」、「依頼する」など依頼的な働きかけのある動詞の場合もあるが、次の(25)「小遣いをやって」、(26)「袖の下(賄賂)を使って」のように、依頼的な働きかけが考えられる目的語と述語の組み合わせで表される場合もある。

- (25) 一郎は貞子ばあさんに小遣をやつて、ついて

行ってもらった {≒ついて行かせた}。(クリコフの思い出)

- (26)ただし、軽い過失の場合には、奉行所の同心や岡っ引きに袖の下(賄賂)を使って見逃してもらう {≒見逃させる} こともあった。(大江戸長屋ばなし)

また、前件動詞は「話す」や、「いう」「説明する」など、言語活動を表す動詞の場合もある。直接話す場合や電話で話す場合などがあるが、いずれも具体的な動作が伴わずに、言葉を使って依頼的な働きかけをするのである。

- (27)どうしてもほしい。あの人にいって ゆずって もらおう {≒ゆずらせよう}。(いのちをうばった神さま)

- (28)一時の来客は、事情を説明して 明日に延ばして もらった {≒延ばさせた}。(風が吹く日は社員に会いたい)

このような依頼的テモラウ文は、継起的テ節の複文の中で、テ節の前件と後件が同じ主語で、かつ前件動詞が依頼的働きかけの意志動詞であるという構文的特徴をとる文であるが、依頼的という意味はこのような構文的特徴に支えられていると言える。即ち、動作主に「頼んで」動作を「してもらう」のような構文において、「頼む」や「依頼する」「ねだる」のような依頼的働きかけを表す動詞が用いられることによって、テモラウ文に依頼的働きかけがあることが明白になるのである。

なお、上記の(21)―(28)のような後件のテモラウ文に依頼的働きかけがある複文は、複文のテ節が継起的テ節であり、複文の前件と後件が同じ主語であり、前件動詞が依頼的働きかけのある意志動詞であるという性質があるが、次の(29)のような文は、複文の前件と後件が同じ主語でないものであり、このような文の後件の表す事態に主語から動作主への依頼的働きかけはない。

- (29)お盆の晩には、いつも親戚中が集まって、いろいろな話を聞かせてもらいました。

(山田 2004:126)

B 命令や意志、希望などを表すモダリティ形式と共起するテモラウ文

山田(2004)は命令や意志、希望などを表すモーダルな形式が依頼的テモラウ受益文や許容的テモラウ受益文と共起できると指摘しているが、使役文にも命令や意志、希望などを表すモーダルな形式と共起でき、依頼的な働きかけ或いは許容的な働きかけが伴う文がある。共起できるモダリティ形式は希望を表す「たい」や意志を表す「(よ)う」「つもり」などがある。

- (30)「最低三人は集められるはずだ。あんたにも行ってもらいたい {≒行かせたい}、全部で五人だ」(死紋山脈)

- (31)忠太の手には、道中サリーに食べてもらおう {≒食べさせよう} として買ったりんごがあった。(笑わせ者たちの伝説)

- (32)そのためにも是が非でもわたしに家業を継いでもらねばならない {≒継がせねばならない} 事情があったのだ。(フロイトを読む)

- (33)今すぐにはとても無理なんで、もう少し待ってもらうしかない {≒待たせるしかない} という結論に達したようなわけなんです。(戦時下動物活用法)

- (34)さっきの約束では、旅館まで紙谷に送ってもらうつもり {≒送らせるつもり} だったが、この分では難しそうである。(流水への旅)

上記のテモラウ文は命令や意志、希望などを表すモダリティ形式と共起し、依頼的働きかけがあると考えられ、このような依頼的テモラウ文は依頼的働きかけのある使役文とほぼ同じ事態を表現できると考えられる⁶。

一方で、使役文にも依頼的働きかけのある文が見られる。

(35) 清瀬の野郎は、汚い仕事はすべて子分にやらせて、「≒やってもらって」、なにかトラブると子分をトカゲの尻尾にして切り離し、自分だけ天下泰平を決め込んでやがる。(雪煙)

この使役文はいわゆる基本的な使役文であり、使役主体が動作主に動作を実現させるように依頼的な働きかけをする文である。この文の表す事態は、使役主体の「清瀬の野郎」が「汚い仕事をやる」という動作を実現させるように動作主の「子分」に働きかけて、動作主がその働きかけを受けて動作を行ったということであるが、この事態をテモラウ文で表現すると、上から下への命令というニュアンスが弱まるものの、「清瀬の野郎」が動作を実現させるために「子分」に働きかけて、その結果「子分」が動作を行ったという同じ事態を表現することとなる。

また、上記の依頼的テモラウ文 A や B の構文的特徴を持つ基本的な使役文も見られる⁷⁾。

A' 継起的テ節と主節が同主語であり、かつ前件動詞が働きかけの意志動詞である使役文

(36) (光明皇后は) その運営には、皇后宮職と大臣家の封戸の庸を費用にあてて、毎年諸国に「〔〔〕」各地の薬草を「〔〔〕」買い集めさせたという。(光明皇后)

(37) そこで三善清行の子の浄蔵法師に「〔〔〕」加持させると、道真の霊が白昼に清行の許にあらわれた。(ちくま日本文学全集)

(38) 「…かな新聞は、そこにて発行せしものなり、編輯の方は、他人を「〔〔〕」やらせ、彦造は金主なり、損失ばかりなれば、遂に廃刊せり」(ジョセフ＝ヒコ)

(39) 二十三日には武蔵・美濃・遠江・伊勢・駿河・下総・信濃の関東・東海筋の諸代官を「〔〔〕」召集して現地の報告と対策を検討させている。(民衆史入門)

(40) 彼はこの論法でもって、その頃まだ公衆浴場にいた、自分の父親ほどの年齢の三助に必要

な「〔〔〕」金を払って、平然と自分の背中を流させたものだったが、僕にはどうしてもそれができなかった。(友達)

(41) 「そうだよ、彼女かも知れないぞ。そして、書斎の鍵を、ニコルスンに「〔〔〕」渡して、ヘンリーのポケットへ「〔〔〕」入れさせたんだ」(謎のエヴァンズ殺人事件)

(36)―(41) は、使役主体も動作主も意志的存在としての人であり、使役主体が動作主に意志的な働きかけ(それぞれ□□で示している部分)をし、その結果、動作主が意志動作を行ったということが表される文であり、基本的な使役文である。(36) では、使役主体が動作主の「諸国」に意志的に働きかけて(「命じて」)、その結果、動作主の「諸国」が意志動作「薬草を買い集める」を行ったということが述べられている。この文は、複文の前件「諸国に命じて」は継起的テ節であり、テ節の動詞「命じる」は意志動詞である。そして、複文の前件の主語と後件の主語は同一人物(「光明皇后」と考えられる。このような基本的な使役文は上記の特徴 A の (21)―(28) と構文的に似た特徴がある。

B' 命令や意志、希望などを表すモダリティ形式と共に起する使役文

(42) 「いったい何のために、琢磨さんにお金を「〔〔〕」運ばせたいの」〈琢磨を恨んでるからだよ〉「琢磨さんに危害を加えようとしているのなら、そっちの要求に応えることはできないわ」〈そんなつもりはないさ。こっちはただ琢磨に金を運んでもらいたいだけだ〉(爆弾魔)

(43) 「…なんなら「〔〔〕」ぼくの弁護士に状況を調べさせようか? 彼から銀行家たちに注意をうながしてもらおう手もあるし」(愛と復讐の館)

(44) 縄を張り、それに掴まって兵を「〔〔〕」這い登らせなければならぬほどの急斜面だったが、反対側は緩やかだった。(三国志)

(45) 「ううん。これは感心した。結局、犯人は、こ

こへかくしておいて、仲間に運び出させるつもりだったのか」(少年探偵ジャーネ君の冒険)

(42)―(45)は使役文とモダリティ形式が共起する文であるが、このような使役文は基本的な使役文であり、使役主体から動作主への依頼的働きかけがあると考えられる。このような使役文もテモラウ文と同じ事態を表現できる。ことに(42)では、「琢磨にお金を運ばせたい」という使役文を発話した人がその後の発話では同じ動詞「運ぶ」を用いて「琢磨にお金を運んでもらいたい」とテモラウ文を用いている。

5.2 許容的テモラウ文

次のようなテモラウ文は許容的なテモラウ文である。

(46)「とんでもない疑いよ。ジェニーのマシューに対する献身と忠誠の心は、みじんも疑ったことはないわ。事件が解決して、彼女の身の潔白は完全に証明された。今もここに通ってもらっている {通わせている} わ」(愛する予感)

(47)湯飲みは、少しずつ買い集めたものをカゴに入れて出し、お客様に好きなものを選んでもらっています {選ばせています}*。(レタスクラブ)

(46)(47)の文では、主語が動作主に依頼したり、要求したりする働きかけをせず、動作主の動作をそのまま放任し、或いは許容していると考えられる。(46)では、「ジェニー」が疑われていたが、事件の解決につれて、嫌疑なしであることが証明され、そして、「ジェニー」が彼女自身の意志で、自由に「ここ」に通っているという事態が述べられている。この文は、主語の話し手が動作主の「ジェニー」に対して、命令したり頼んだりして「ここに通う」という動作を実現させたのではなく、動作主の「ここに通う」という積極的意志を持った動作の出来を許容しているという文である。(47)も同じように、主語である話し手が「お客

様が好きなものを選ぶ」という事態の出来に働きかけたのではなく、動作主の「お客様」の動作「好きなものを選ぶ」というのを阻止せず許容している。(46)(47)のような許容的なテモラウ文は使役文と同じ事態を表現できる。

使役文にも、以下のような許容的な使役文が観察される。

(48)「だめ。彼女には彼女のゲームがあるのよ。彼女のやりたいようにやらせなきゃ、このテストの意味がなくなってしまうわ。…」(クラインの壺)

(49)鍋底が騒ぎ立つのを予期していなかった。言うだけ言わせておく。草刈の心持ちであった。(あの世この世の軍立ち)

(48)は「彼女のやりたいように」とあることから分かるように、動作主の「彼女」が「やりたい」ので使役主体がその動作を許可してやらせているという意味を表す文である。(49)は、使役主体の「草刈」が動作主の「鍋底」の動作「言う」を許可或いはそのまま放任しているという意味の文である。このような使役文をテモラウ文で表現しても、(48)であると(「やりたいようにやらせてもらわなきゃ」)話し手が「彼女」の動作「やる」を許可する、(49)であると(「言うだけ言ってもらっておく」)「草刈」が「鍋底」の「言う」という動作を許可・放任するとなるように、同じ事態を表す。

5.1節や5.2節で挙げた例と違い、下記の(50)(51)のテモラウ文は受益者から動作主への働きかけがなく、単純に動作から影響を受けているだけであるので、このような文は単純受影的なテモラウ文である。このような文の表す事態は使役文では表現できない。

(50)そんなんじゃない。生きていてもらっては、日本中が迷惑をする大鬼の首をとってやったのさ(三郎兵衛の恋)

(51)村の作場渡しでは近年、非人・乞食を抱えて渡

船させているが、彼らと自分たち水主を同等に扱ってもらっては迷惑であるとしている。(信州の江戸社会)

次節では、このような使役文と同じ事態を表現できないテモラウ文を見ていく。

5.3 単純受影的テモラウ文

単純受影的テモラウ文は受益者から動作主への依頼的働きかけがなく、また、動作主の動作を阻止せずそのまま許可するという意味もなく、単純に動作主の動作から一方的に影響を受ける構文である。前節で簡単に述べたようにこのような単純受影的テモラウ文の表す事態は使役文では表現できない。形式から見ると、単純受影的テモラウ文には、以下のようなタイプが観察される。

- (i) テモラウ文が複文の従属節（前件）中にあり、主節（後件）に「うれしい／助かる」「困る／まずい」などの表現があるタイプ
 - (i - i) {～てもらとう／もらって／もらったら}、…… {うれしい／助かる (など)}
 - (i - ii) {～てもらとう／もらっては／もらったら／もらわないと}、…… {まずい／困る (など)}
- (ii) 上のような形をとらないタイプ

この節ではこれらのタイプの文を実例を用いて考察していく。

まず、(i - i) のタイプの文は、テモラウ文が複文の前件の中に置かれて主語が恩恵を受ける事態を表し、その結果表出されるプラスの感情が後件で表される文である。まず「テモラウ」の形式ごとに例を示す。

○「～てもらとう、～うれしい (など)」

(52)「そりゃありがとう、そうしてもらとうとありが

たい }? そうさせるとありがたい}」そう言って夢二はねあせを拭ってグシャグシャになって居るタオルで、涙をふいて居た。(夢二再考)

(53) よかった。そう、素直に話してもらとうと、非常に助かるんですがね }? 素直に話させると助かる}。(見えない宝石)

○「～てもらって、～うれしい (など)」

(54)「ほめてもらってうれしい」} ? ほめさせてうれしい} 矢場は、素直に喜ぶと、みんなの真ん中の席にすわった。(ぼくらの「第九」殺人事件)

(55)「今日は本当にごちそうさま。いいところに連れてってもらってありがとう」} ? 連れて行かせてありがとう} (中国てなもんや商社)

○「～もらったら、～助かる (など)」

(56) 融資制度のいろいろなメニューはあるが、借金が多かったら借りられない。返済猶予期間を伸ばしてもらったら助かる} ? 伸ばさせたら助かる}。(Yahoo! ブログ)

(57) 心のこもった挨拶をしてもらったらやっぱり嬉しい} ? 心のこもった挨拶をさせたら嬉しい} ですよ。(Yahoo! ブログ)

これらの (52)―(57) は、前件動詞の表す動作が文全体の主語にとって利益のある動作であり、受益者が動作主からプラスの影響をうけ、そのため、後件は「うれしい」や「ありがたい」「ありがとう」のようなプラスの感情を表す表現が来るのである。これらの例はいずれも動作がすでに発生した状況であり、前件の動作の発生によって後件の表すプラスの感情が生じたのである。このような場合は、前件のテモラウ文は単純受影的な文である。それに対して、使役文には、使役主体が動作主に働きかけて動作を実現させるといような文や、動作主の動作の実行を許容する或いは

阻止しないというような文があるが、動作主に働きかけずその動作から一方的に影響を受けるというような性質の文がない。従って、このような事態を表す単純受影的なテモラウ文は使役文では表現できない。今回考察対象とした1,000例の使役文には、上記のような構文的特徴のある文は一つもなかった。

次に(i-ii)のタイプは、文の構造は(i-i)のタイプと同じだが、後件の内容が(i-i)とちがってマイナスの感情(「まずい」、「困る」、「不安だ」、「迷惑だ」など)を表すものである。こちらも「テモラウ」の形式ごとに例を示すと次のようなものである。

○「～てもらっては、～まずい(など)」

(58)これ以上難民が増えてもらっては困る}? 増えさせては困る}。これ以上外国人が街に住みついてもらっては困る? 住みつかせては困る}。(通貨崩壊)

(59)私がそこに居ることは絶対に秘密にしたいのです。だから直接、迎えに来てもらってはまずい? 来させてはまずい}。(標的はひとり)

○「～てもらわないと、困る(など)」

(60)「ああ～、まいったな。最初に言っておけばよかったんだけど…僕の秘書は、なるべく動きやすい服装をしてもらわないと困る? 動きやすい服装をさせないと困る}んだ。…」(武官弁護士エル・ウィン)

(61)結構だとは申しませんが、ぜひ早急に、これは封切りをされてしまいますから、ひとつ真剣に対応してもらわないと困る? 真剣に対応をさせないと困る}ということを申し上げたい。(国会会議録)

(62)それも、最初のうちは、主人につきそってもらわないと不安だった? つきそわせないと不安だった} のですが、このごろ、一人で出かけるのも平気になりました。(ひかり求めて)

(63)男たちにもっと華やいでもらわないとこちらも面白くない? 華やがせないと面白くない}ものだから、それ以後も「男性問題」の本を追いつづけた。(女の言葉が男を変える)

○「～てもらったら、～困る(など)」

(64)最近、ロシアが五十年代に毎年IWCで許されていた数倍ものクジラを捕っていたことが明るみに出たが、彼らならば「日本の捕鯨と一緒にしてもらったら困る? 一緒にさせたら困る}」と笑い飛ばすことができるだろう。(クジラを捕って、考えた)

(65)したがって、ああいう数字は余り出してもらったらかえって迷惑だ? 出させたら迷惑だ}というような声が聞こえているほど地域は非常に厳しい状況であります。(国会会議録)

○「～てもらうと、～困る(など)」

(66)その人の手で襟を立ててもらったり、髪をとってもらうと、何か嫌なんです? 髪をとらせると、嫌なんです}。(Yahoo! 知恵袋)

(67)ただし、勘違いしてもらうと困る? 勘違いさせると困る}。僕は自分の立場を守りたいから、こんなことを言ってるんじゃない。(はちまん)

(58)―(67)は、前件のテモラウ文で表された悪影響をもたらす動作が実現されると、結果として後件で表されたマイナスの感情が生じることを表している。テモラウ文には依頼的働きかけも許容的働きかけもなく、単純受影的な性質を持っていると考えられる。これらの場合も使役文で表現することができない。今回考察対象とした1000例の使役文には、上記のような構文的特徴のある文は一つもなかった。

最後に(ii)のタイプは、(i-i)(i-ii)のような形式ではないが単純受影的であると判断できるものである。

- (68) ほどほどに親しみを表現してもらう {? 表現させる} のは「快感」、しかしあまり親しそうにたびたび声をかけられるのは、自分の心理的な意味での私的空間に侵入されたようで、不快感をもつという仕組みなのです。(自分をどう表現するか)
- (69) 何から何まで非常に親切にして貰って {? 親切にさせて}、何しろお医者がついてゐるものだから、死んだつて自分の所為ではないと云ふ「安心」の下に私の胸の苦しみを、他人様の様にあしらひながら、ぐっすり寝入った。(芥川龍之介雑記帖)
- (70) 「ちょっと休もうか」と先生に声をかけてもらった {? 声をかけさせた} けれど、私は「大丈夫です」の一点ばりでした。(倫子、二十歳の旅立ち)

これらは、テモラウ文の主語から動作主への働きかけが読み取れず、主語が単純に動作から利益や恩恵を受けるだけである。とくに (68) (69) では「快感」「安心」という語が文中にあることから、主語が動作主の動作から利益を受けているニュアンスが明瞭に読み取れる。いずれも単純受影型と考えられる。

6. おわりに

本稿では5節において、テモラウ文を依頼的テモラ

ウ文、許容的テモラウ文、単純受影的テモラウ文に分け、それぞれについてテモラウ文と使役文が同じ事態を表現しうるか否かを考察した。そして、テモラウ文の中の依頼的なタイプと許容的なタイプは使役文とほぼ同じ事態を表現しうるのに対して、単純受影的なタイプは使役文と同じ事態を表現できないことが明らかになった。考察の内容をあらためてまとめると次のようになる。

まず、継起的テ節が同主語かつ前件動詞が依頼的働きかけの意志動詞のテモラウ文は依頼的働きかけがあると考えられ、使役文とほぼ同じ事態を表現できる。また、命令や意志、希望などを表すモーダルな形式と共起するテモラウ文は、依頼的働きかけ或いは許容的働きかけがあると認められ、使役文とほぼ同じ事態を表現できる。一方、単純受影的テモラウ文は、形式としては「～てもらうと、～うれしい (など)」、「～もらっては、～まずい (など)」のように主節に「うれしい／助かる」「まずい／困る」などの表現がある文が多い。受益者から動作主への働きかけがなく単純に影響を受ける文であり、使役文と同じ事態を表現できない。

今回の考察では、テモラウ文を中心に使役文との関係を考察した。これをもとに今後は、テモラウ文を中心に、使役文、受身文との関係を全体的に明らかにすることを大きな目標としたい。

調査資料

国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』
http://pj.ninjal.ac.jp/corpus_center/bccwj/

参考文献

- 李仙花 (2006) 「働きかけ性が関わる「てもらう」文の意味について—使役文との関係から—」『文芸研究』161, pp. 51-41, 東北大学文学研究科
- 李仙花 (2014) 「使役文とテモラウ文の働きかけに関する考察—〈叙述〉と〈実行〉のモードにおける解釈をめぐって—」『国語学研究』53, pp. 30-43, 東北大学文学研究科

- 加藤陽子（1995）「テ形節分類の一試案 従属度を基準として」『世界の日本語教育』5, pp. 209-224, 国際交流基金日本語国際センター
- 佐藤里美（1986）「使役構造の文」『ことばの科学 1』pp. 89-179, むぎ書房
- 豊田豊子（1974）「補助動詞「やる・くれる・もらう」について」『日本語学校論集』1, pp. 77-96, 東京外国語大学外国語学部附属日本語学校
- 仁田義雄（1995）「シテ接続をめぐって」仁田義雄編『複文の研究（上）』pp. 87-126, くろしお出版
- 早津恵美子（2004）「使役表現」尾上圭介編『朝倉日本語講座 6 文法Ⅱ』pp. 128-150, 朝倉書店
- 早津恵美子（2012）「日本語における「ヴォイス」を再考するために—主語が動きの主体か否か—」『日中言語研究と日本語教育』5, pp. 20-36, 『日中言語研究と日本語教育』編集委員会（事務局：関西学院大学国際学部于康研究室内）
- 早津恵美子（2015）「日本語の使役文における使役主体から動作主体への働きかけの表現—従属節事態と主節の使役事態との関係—」『語学研究所論集』20, pp. 1-13, 東京外国語大学語学研究所
- 益岡隆志（2001）「日本語における授受動詞と恩恵性」『言語』30-5, pp. 26-32, 大修館書店
- 松下大三郎（1924）『標準日本文法』紀元社
- 村上三寿（1986）「やりもらい構造の文」『教育国語』84, pp. 2-43, むぎ書房
- 山田敏弘（2004）『日本語のベネファクティブ—「てやる」「てくれる」「てもらう」の文法—』明治書院
- 楊凱榮（1989）『日本語研究叢書 2 日本語と中国語の使役表現に関する対照研究』くろしお出版

注

- 例文中の下線について、本稿では、特に断らない限り、主語（受益者／使役主体）を二重下線で、動作主を波線で、問題となる動詞述語を一重下線で、その他注意すべき部分を囲み線で示すこととする。
- 松下（1924）は「V-（サ）セル」による文を「使動」、「V-（ラ）レル」による文を「被動」と呼び、接辞のついていない「V」による文を「原動」と呼んでいる。本稿ではこれを参考にし、接辞のつかない「V」を述語とする文を「原動文」と呼ぶこととする。
- 早津（2004）は「因果関係の使役」の例として、次のようなものを挙げている：
山田君が突然太学をやめると言いだして指導教官をびっくりさせた。（早津 2004：131）
- 早津（2004）は「他動的使役」の例として、次のようなものを挙げている：
ブランデーをふりかけたバナナを冷凍庫で凍らせる。（早津 2004:132）
- 国立国語研究所で開発されたコーパスである。書籍、雑誌、新聞、白書、ブログ、ネット掲示板、教科書、法律などのジャンルにまたがって1億430万語のデータを格納し、各ジャンルについて無作為にサンプルを抽出しているという。（国立国語研究所コーパス開発センターホームページより）
- 以下のようなテモラウ文は、やや許容的な面もあるが、依頼的と許容的のいずれでも、使役文と同じ事態を表す。
これがあるで一発で寝る、と言うものを作ると結局それがないと寝ない、ということになって却って後で面倒かな、と思ひなるべく自然に寝てもらいたい |≠寝させたい| と思っていました。（Yahoo! 知恵袋）
- 使役文のA'の構文的特徴は早津（2015）にも述べられている。早津（同）は、従属節事態と主節の使役事態との関係を考察し、従属節に使役主体から動作主体への働きかけが表現されているものと、従属節に動作主体に向かうのではない種々の動きや変化が表現されているものがあると述べている。従属節に使役主体から動作主体への働きかけが表現されているとき、その従属節の動詞は大きく4つのタイプ、「動作の要求・誘導（「命じて」「うながして」など）」「動作を行う立場や環境のつくりだし（「雇って」「派遣して」など）」「意識の誘導（「あざむいて」「だまして」など）」「身体部位への関わり（「抱いて」「なぐって」など）」に分けることができると指摘されている（早津 2015:4）。
- 5節で示したように、ここに } } で示しているのは、テモラウ文が完全に使役文に言い換えられるということではなく、使役文が用いられても、同じように「お客様が好きなものを選ぶ」という事態を表現できるということである。じつは、(47)では「お客様」という表現が用いられているため、使役文に言い換えると、文全体のニュアンスが変わると思われる。あるいは、そもそも使役文が使われると不自然になるということも考えられる。